



SIGMUS85-12

閉曲線を利用した音色操作方法の検討と実装

金沢大学大学院 集積回路工学研究室 岩淵 勇樹 秋田 純一 北川 章夫



背景

- 音楽制作における電子楽器の浸透
- 電子楽器市場に新しい波



次世代の電子楽器(1)



TENORI-ON 2008年5月発売 開発元: ヤマハ

- 視覚的・直感的な作曲が可能
- 16×16のボタンで平面的な操作



次世代の電子楽器(2)



KAOSSILATOR 2007年11月発売 開発元: KORG

- タッチパッド操作による演奏
- 横軸・縦軸で独立したパラメータ操作



ゲーム機で楽しむ音楽



- KORG MS-10を二ン テンドーDSで再現
- シンセサイザーに加 え、カオスパッド入力 なども可能
- ゲーム的要素は含まれない

KORG DS-10 2008年7月発売

開発元: AQインタラクティブ





「音色」の入力インタフェース

- 主にツマミやボタン・スライダ
- 自由な音作りには慣れが必要

⇒空間情報を用いた新しいインタフェー スの必要性





本研究の目的

• 「音色」の入力インタフェースは発展途上

タッチパネル製品の普及 (ニンテンドーDS、iPhone)

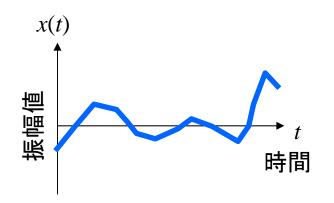
⇒平面的な入力インタフェースを生かした 音色入力の方法を提案



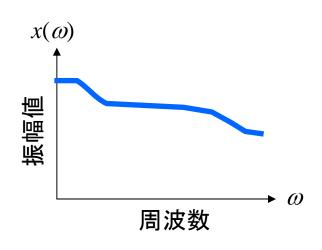


画像を用いた変換音楽

例)グラフ



「波形編集」 Audacityなど



「スペクトログラム」 UPIC、MetaSynth、MIDIアニメなど

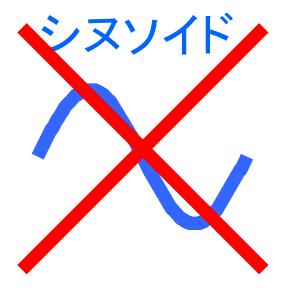
- ほとんどは各軸の次元が違う
- 図形的特徴に忠実なシステムは皆無





音のかたちとは? (発想の原点)

正弦波=







音のかたちとは? (発想の原点)

正弦波=





予備知識: ヒルベルト変換

$$F(\omega) = \begin{cases} i & (\omega < 0) \\ 0 & (\omega = 0) \\ -i & (\omega > 0) \end{cases}$$

- オールパスフィルタ
- 負周波数で90°、正周波数で-90°位相変化
- 逆数関数(1/t)との畳み込み積分に等しい





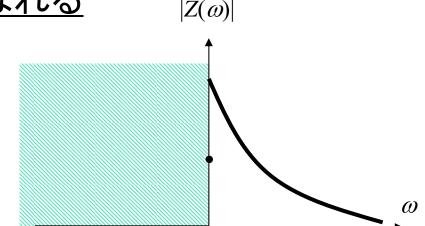
解析信号(実信号の複素化)

•
$$z(t) = x(t) + i y(t)$$

 $y(t) = \mathcal{H}[x(t)]$ (ヒルベルト変換) のとき
 $Z(\omega) = 2U(\omega) \cdot X(\omega)$

→一般に「解析信号」とよばれる

- $\operatorname{Re}[z(t)] = x(t)$
- $z(t) = (\delta(t) + i/t) * x(t)$ = $x(t) + i\{1/t * x(t)\}$







解析信号の例

例)

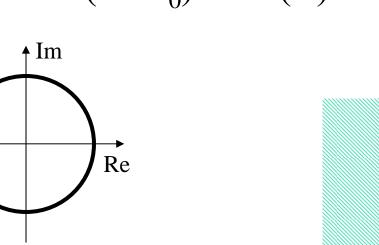
 e^{it}

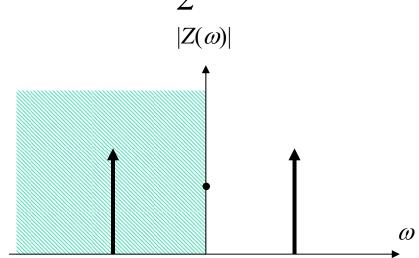
• $e^{it} = \cos(t) + i \sin(t)$

 $\sin(t) = \mathcal{H}[\cos(t)]$

z(t)

$$\delta(\omega - \omega_0) = 2U(\omega) \frac{\delta(\omega - \omega_0) + \delta(\omega + \omega_0)}{2}$$

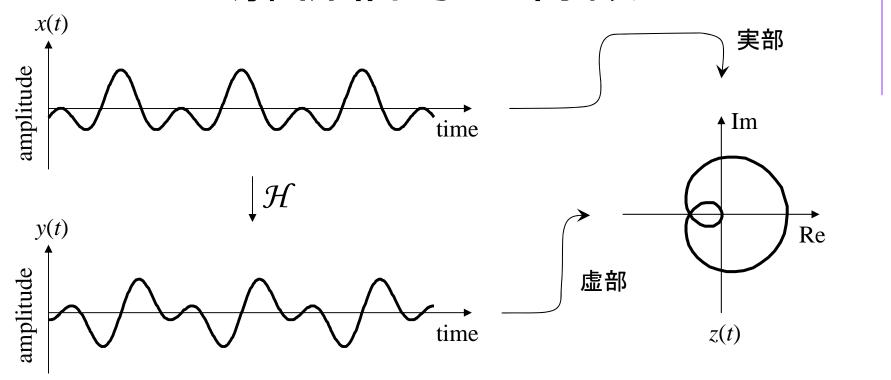


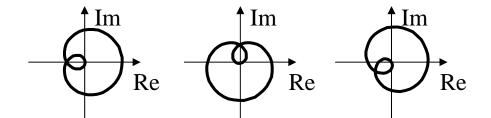






解析信号の特徴



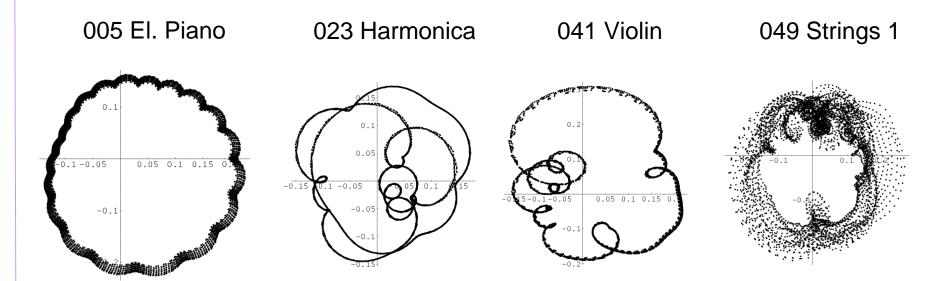


回転図形に対して 実数部のパワースペクトルが 常に等しい





楽器の音(MIDI)のかたち

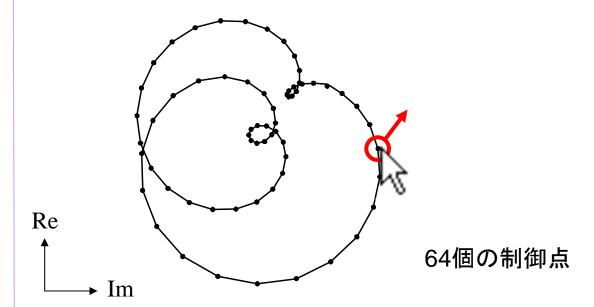






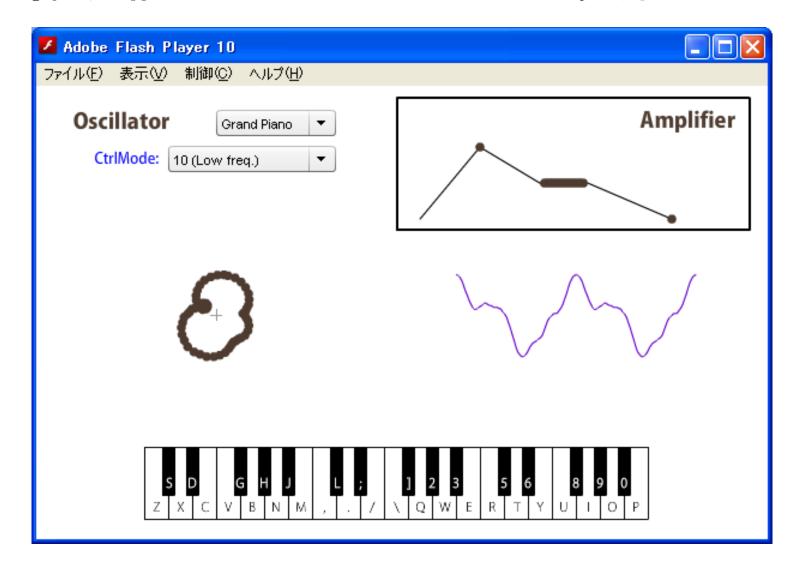
提案システム:解析信号シンセサイザ

- 解析信号+解析信号=解析信号
- 制御点をドラッグする度に解析信号を付加
- ツマミのないシンセサイザ



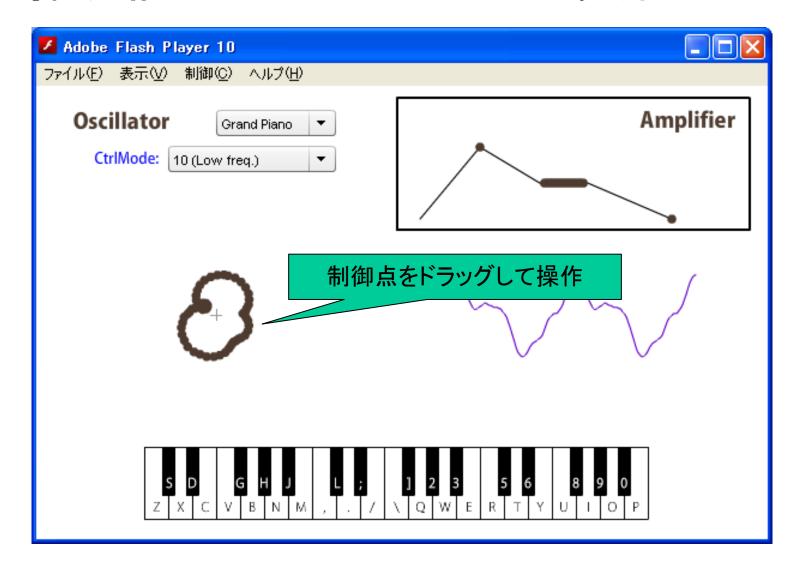






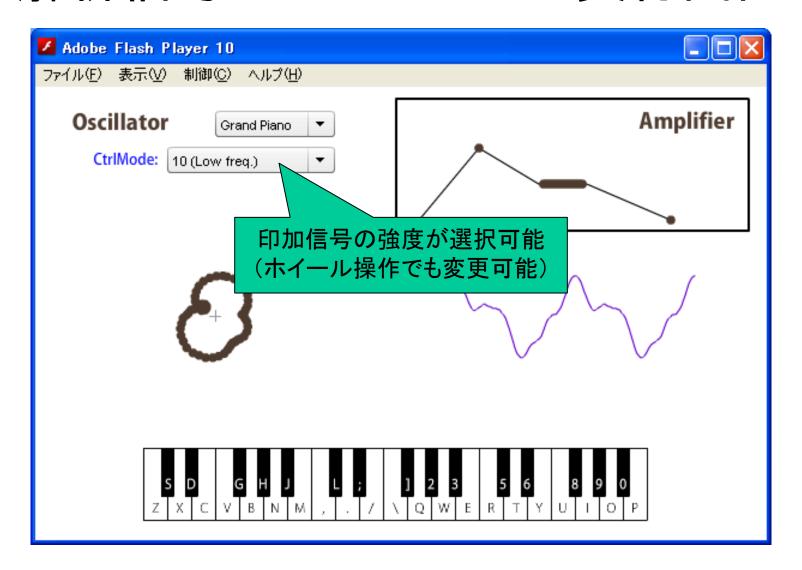






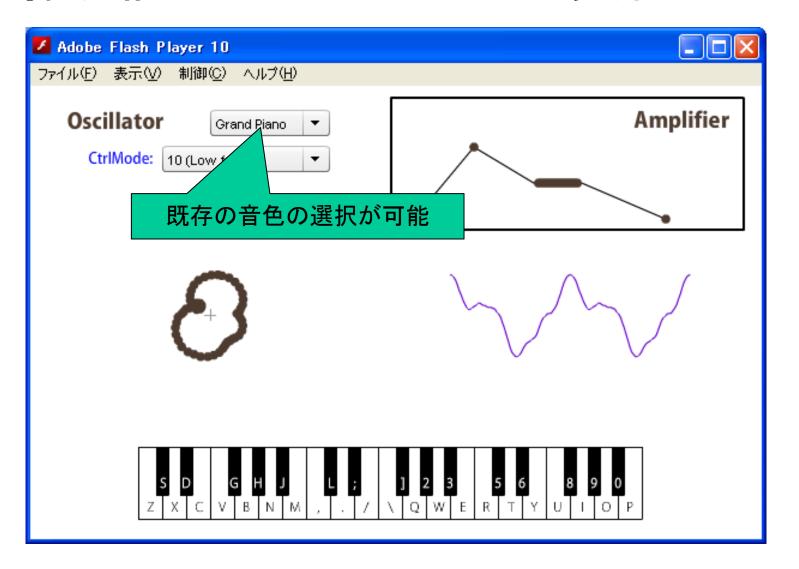






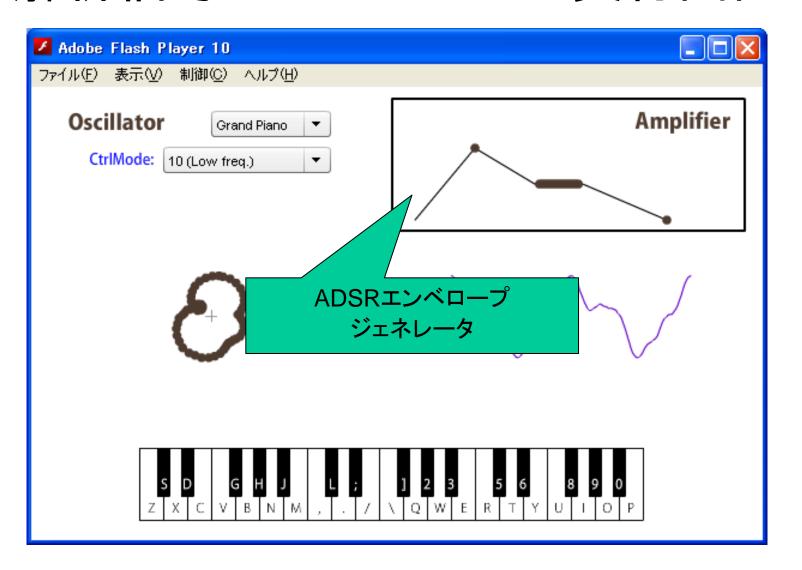






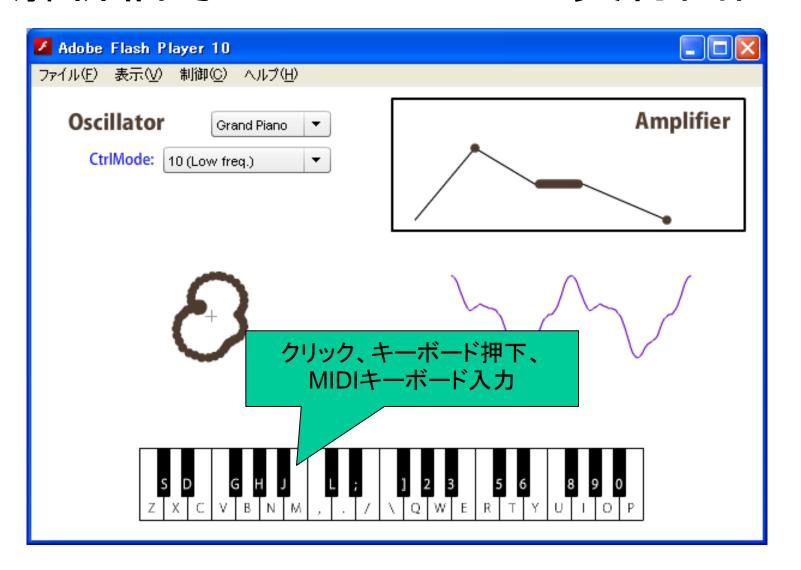
















まとめ

- 解析信号による音色生成方法を提案
- 解析信号シンセサイザを実装





今後の展望

- VSTによる実装
- iPhoneアプリへの移植